

# 先進医療と地域・チームの連携で 心血管疾患に挑む



金沢大学医薬保健研究域医学系・循環器内科学 教授  
金沢大学附属病院 循環器内科 科長  
たかむら まさゆき  
**高村 雅之氏**

1993年 金沢大学医学部医学科卒業  
1997年 金沢大学大学院医学系研究科博士課程卒業  
1999～2001年 モントリオール大学附属心臓研究所 研究員  
2003年 金沢大学附属病院循環器内科 助手  
2006年 金沢大学附属病院循環器内科 講師  
2019年 金沢大学医薬保健研究域医学系循環器内科学 教授  
金沢大学附属病院循環器内科科長・冠疾患治療部部長・ハートセンター長

日本で単一臓器の死亡原因として最も多いのは心疾患。命に関わるとともに、QOL(生活の質)を著しく低下させる病気でもあります。高村雅之教授は患者中心の医療を実践しながら、再生医療の臨床研究など最先端の分野にも取り組んでいます。

## 心臓や血管の再生医療で QOLの向上を目指す

名古屋大学をはじめ全国の施設と共同で、皮下脂肪組織由来の幹細胞を用いた心筋や血管の再生医療に取り組んでいます。私たちが使うのは皮下脂肪に存在している間葉系幹細胞というもので、これはさまざまな細胞に分化する能力を持っています。患者さんの皮下脂肪を吸引で採取し、酵素処理と遠心分離を行ってその日のうちに心臓の筋肉などに投与します。

再生医療といえばiPS細胞を思い浮かべる方も多いと思いますが、コスト面など課題は少なくありません。一方で皮下脂肪組織由来の幹細胞は採取しやすく、一度に準備できる細胞の数が豊富であるなど多くのメリットがあります。脂肪幹細胞を用いた再生医療は海外では10年以上前から注目を集め、乳がん手術後の乳房再建や火傷治療などが行われてきました。

管の機能改善に寄与していることが明らかになっていきます。再生医療というのはリアすべき課題がとて多く、5年10年という長いスパンで研究を進める必要があります。将来、心不全の患者さんの心臓の機能が回復する、あるいは重症虚血肢の患者さんが肢の切断を免れる、そういう日が来るものと思います。ひとりではできない研究ですから、今後も協力してコツコツとデータを積み重ね、保険診療適用を目指したいと考えています。

## 地域や診療科の垣根を越え チームでよりよい医療を

2019年に旧来の第二から第三のナンバード内科が臓器別の内科へと再編され、循環器のスペシャリストを集めた循環器内科ができました。これによって北陸3県それぞれの基幹病院とこれまで以上に緊密な連携がとれるようになり、地域医療を担う一員としての役割をよりスムーズに果たせるようになりました。私たちは最後の砦といわれますが、それは大学病院のスタッフだけではなく、地域の先生方との一致団結があればこそだと思います。

一致団結ということであれば、診療科の垣根を越えて循環器疾患の治療を行う



院内のチーム医療だけでなく、北陸3県の病院との地域連携を大切にしている

ハートセンターがあります。循環器内科と心臓血管外科、そして放射線部や看護部、時には小児科などが一体となって最適な治療を組み立てます。2016年にハイブリッド手術室が設置されたことで、血管造影と外科手術を同時に行えるようになりました。内科医と外科医が連携し、これまで難しかった治療にも取り組んでいます。

患者さんの立場で考えると外科内科科なんて関係ありませんよね。病気を治すことが目的なのですから。どの診療科がインシアチブをとるのかは結果論であつて、大切なのは患者さんに最適な医療を提供すること。チーム全体で情報や知識を共有し、ディスカッションを重ね、患

## これからの医療を担う人材を 一人でも多く育てたい

医学を志したきっかけは、中学生の頃にテレビ番組で見た心臓外科医の姿です。心臓疾患に関心があり、若い頃は主に不整脈治療に取り組まれました。心臓疾患というのは命に関わりますから、慎重かつダイナミックに対応しなければなりません。循環器内科医の仕事は外科的要素も多く、心臓外科医になるという夢はほほ叶えられたのかなと思っています。

これからの私の使命は若い人材を育てること。北陸をはじめ、さまざまな場所で活躍してくれる医師を二人でも多く育てる、これに尽きると思います。地方では専門領域だけでなく幅広い治療に対応できる医師のニーズが高いですし、都会では狭い分野のスペシャリストも必要とされます。研究者を志す人もいるでしょう。あらゆる可能性を目標とできる、そんな環境を作ることが私の仕事だと思っています。